

令和3年度病害虫発生予察注意報第11号

令和3年11月1日
愛知県

作物名：トマト

病害虫名：コナジラミ類

- 1 発生地域 県内全域
- 2 予想発生程度 多い
- 3 注意報発表の根拠

10月下旬に県内14ほ場で行った巡回調査において、成虫寄生枝率が10.9%（平年3.0%、前年4.8%）、発生ほ場率は50.0%（平年31.3%、前年50.0%）で、いずれも過去10年で最も高かった。

また、タバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病の発病株率が1.86%（平年1.05%、前年1.21%）と、過去10年と比較して2番目に高かった。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内への侵入を防ぐため、開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を展張する。
- (2) 黄色粘着板や黄色粘着テープを施設内や周辺部に設置し、成虫を捕殺する。
- (3) 多発すると防除が困難となるため、発生初期に表を参考に防除する。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、IRACコードが同じ薬剤を連続して使用することは避け、気門封鎖剤も活用する。
- (4) 花粉交配用昆虫を利用する場合は、影響日数に注意して農薬を選定する。
- (5) タバココナジラミはトマト黄化葉巻病の病原ウイルスを、コナジラミ類はトマト黄化病の病原ウイルスを媒介する。ウイルスの発病株は見つけ次第抜き取り、適切に処分する。

表 トマトのコナジラミ類に対する主な防除薬剤

薬剤名	成分名	使用時期	本剤の使用回数	IRACコード
モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド	収穫前日まで	3回以内	4A
アニキ乳剤	レピメクチン	収穫前日まで	3回以内	6
コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン	収穫前日まで	3回以内	9B
ベネビアOD	シアントラニリプロール	収穫前日まで	3回以内	28
ディアナSC	スピネトラム	収穫前日まで	2回以内	5
コロマイト乳剤	ミルベメクチン	収穫前日まで	2回以内	6
グレーシア乳剤	フルキサメタミド	収穫前日まで	2回以内	30

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、https://www.jpca.or.jp/lab0/pdf/2020/mechanism_irac02.pdf を参照する。薬剤散布の使用に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-62-0085 内線471